

「ビオトープ通信」へようこそ

ビオトープ通信 No.10 2001.1

発行／ふるさとハウス・ビオトープ 編集・執筆／丸田真里子

<目次>

- 新世紀を向かえて
- 雑感
- 西暦2000年のごとアレコレ(ジャングル・農業体験学習)
- 畑から…厨房から…食卓から
- ヒコとおばあちゃんとウコッケイ
- リンゴの木のオーナーだよ
- パソコン導入
- 編集後記

新世紀を迎えて

新たな千年紀、新たな世紀、新たな年。

私にとってそんなことは意味がない。

いつものように朝日が昇り、そして夜のとばりが訪れる。

太陽も月も星も、いつもと変わらない。

(ダライ・ラマ14世)

21世紀を迎え、半月近くが経ってしまっても、なかなか「ビオトープ通信 No. 10」の作成に取り掛かることができず、ワープロに向かって悶々とした日々が、なんと昨年から続いていました。たくさんの方々から頂いた年賀状。また「写真はビオトープ通信と送るからね」と宿泊して下さった方と約束した言葉。とうとう2回も夢を見てしまいました。1回は通信を完成させた夢。もう1回はとうとう通信を出せなかった夢。

…なんて21世紀もやっぱり自分のふがいなさを恥じている言葉から始まるふがいなさ、本当に恥ずかしい限りです。そこで少しは心に残る言葉で21世紀の初めを飾ろうと思い、ダライ・ラマ14世の言葉を引用した次第です。

なにはさておき、まず2000年に「ふるさとハウス・ビオトープ」をご利用くださいました総ての皆様、いつもお心に掛けてくださっている皆様に心より厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。お蔭様で2000年も楽しい出会いが沢山ありました。ご利用の数は残念ながら減少しましたが、密度は次第に濃厚になっているように思います。一人一人の出会いを大切にしないでとは毎年心新たにしています。今年も宜しく願いいたします。

▼鹿島槍ヶ岳の夜明け



西暦2000年のできごとアレコレ

<雑感>

2000年から2001年にかけてマスコミは盛んに「21世紀になくしたいもの、ほしいもの」を探っていました。私がなくしたいと思うものは「人の命に何億円も掛ける生命保険制度」です。もちろん生命保険制度も最初は切羽詰った必要性から誕生したのですが、段々と人間の使い方が歪んできてしまい、殺伐とした人間関係を産む源になっているように私は思います。家族が死んで幾らかのお金が入る、それで安心と思うことの異常さを21世紀には本気で考える必要があると思います。いかなる人も死ぬまで生活に困らないという保障が整っている社会になれば生命保険も必要でなくなるわけです。

そして欲しいと思うものは「生身の人間のふれあい」です。田舎で暮らしていると「近所の人との付き合いって大変じゃない？」とよく言われます。でも近所づきあいを煩わしいと拒否した人が「インターネットを通じて世界の人と仲良くしたい」と言っていたりします。変です。最も身近な近所との付き合いを煩わしく思う人がどうやって世界中の人と仲良くできるのでしょうか。パソコンの画面だけでなく、顔を見て、声を聞いて、手のぬくもり、息遣いにふれてこそ、人は親しみを感じていくものだと私は頑なに信じたいのです。

♪ジャングル♪

2000年のピオトープの夏は最高に燃えました。ギターを抱えた3人の若者が北海道からやってきて、ピオトープでも「暑さをぶっとばせ」とライブコンサートを開いたのです。

彼らは、近所で酪農を営む川又家の若い後継者・康助くんの北海道時代の仲間で、「ジャングル」というバンドの若者たちです。20代前半のかれらが歌う自作の歌は、50代の私たちの青春時代を懐かしく思い出させるフォーク調のもので、私たちも大勢の若者たちと一緒に大勢で歌い、思い切りいい汗をかくことができました。



♪ 農業体験学習 ♪

10年ほど前から小川村では農業学習体験の中学生を受け入れています。2000年は春に2回目になる東京都昭島市多摩辺中学2年生が、秋には初めての埼玉県越谷市富士中学2年生が小川村の各農家で体験学習をしました。

ビオトープでも春は本部として先生方の宿泊所に、秋には6名の女子中学生を受け入れました。うどん作り、赤もろこしの収穫、仕込み味噌の転地返し、そして絵手紙にも挑戦。軽トラックの荷台に乗せてあげたら大喜び。「田舎もいいな。農業も楽しいよ」2泊3日と短期間だけど、まずそう感じてもらえたらと思っての受け入れでしたが、彼女たちはビオトープ中に華やかな明るい笑い声をふりまいて「また皆でくるね」「ビオトープを宣伝するね」なんて言いながら小川村を去って行きました。

彼女たちは今、どんな感想を持っているのかな。後日、送ってくださった全員の感想文集ではとても喜んでいる様子ですが、真の交流はこれからだと思います。彼女たちが「おじさん、真里子さん、おばあちゃん、また来たよ」って気軽に訪ねて来てくれるよう、私たちが大いに努めなくてはなりません。



畑から…厨房から…食卓から

雪もそろそろ解ける頃になると「今年はどんな野菜を作ろうか」とベンさんは考えます。定番の野菜はもちろんですが、ちょっと珍しいものということで、2000年の夏はお馴染みになったズッキーニに加え沖縄のゴーヤ（にがうり）作りに挑戦したのです。

順調に収穫時期を迎え、ゴーヤを前にして、私は早速インターネットで料理のアレコレを調べてゴーヤ料理を作りつづけました。炒め物、唐揚げ、てんぷら、サラダ、極めつけは酢の物・・・これが食べられればゴーヤの通だそうですが、真に苦い。でもこの苦さがうだるような暑い夏にはとても快感なのです。沖縄、ベトナムなどで食べられているのは最もだと思いました。また食べていると段々と苦さにも馴れてきて、初めは「苦くて…どうも…」と敬遠されていた方も「ん？なに、おいしいわ」とゴーヤのファンになった方も大勢いました。沢山採れた日にはお土産に持って帰って頂いたりもしました。また、ズッキーニは普通の緑と、珍しい黄色のズッキーニも作りました。これを薄くスライスして入れれば、トマト、レタス、キュウリなどの野菜サラダの彩りにピタッシ。夕顔ほどに大きくした緑と黄色のズッキーニ、そして初めて挑戦したゴーヤはビオトープの夏の食卓を色鮮やかなものにしてくれました。

いえいえ、夏ばかりでなく秋・冬野菜にもビオトープで話題になっている野菜があります。ビタミン大根です。普通はおろしや漬物に使うのですが、少し大きく育て、スティックにして味噌をつけて食べてみたら、これがなんととも言えず甘くて、次第にピリッと辛くなって、すごく美味しいんです。うす緑色の大根スティックを初めてみたお客様は「なに？これ、メロン？」ですって。脂っこいものの後、冷たいこのスティックをカリカリッと食べる・・・もう最高。珍しい野菜は話題作りにもなりますし、何よりも厨房の私が楽しめます。さて、2001年、ベンさんはどんな珍しい野菜作りに挑むのでしょうか。楽しみにね。

ヒコとおおばあちゃんとウコッケイと

4月にベンさんのお母さん（以後おばあちゃんと呼ぶ）も一緒に暮らすようになってから烏骨鶏に餌をやるのはおばあちゃんの仕事になりました。

「なんだね、けんかばかりして。だめだよ、けんかしちゃあ」と言いながらの餌やり。そうなんです、オスとメスの比率が8：3と圧倒的にオスのほうが多く、オス同士の争いが激しさを増し、メスも落ち着いて卵を産める状態ではありません。これは何とかしなくてはと、ずっと案じていました。

そして、秋も終わる頃近所の方に古参のオスの2羽をさばいてもらいました。私はさばいたものを震える手で料理しましたよ。肉は焼き鳥風に、ガラはスープにしてそば米の雑炊にしました。肉は、毎日たっぷり運動していたせいか筋っぽくて固くてあまり美味しいものではありませんでしたが、スープはあっさりとしていてなかなかの味でした。それ以来、オスの数が少しは減った烏骨鶏一家、なんとなく平和な感じがします。でも卵は依然として産みません。

さて、我が家のもう一つの家族、犬のヒコさま。相変わらず穏やかな性格でお客様から「かわいいー」と可愛がられています。ヒコの散歩も今はおばあちゃんの仕事です。夕方になると二人してとても楽しそうに出掛けていきます。でも寒くなり、雪が降り、道も凍り危ないのでおばあちゃんとの散歩はお預け。でもおばあちゃんを見ると散歩をせがむので、おばあちゃんも残念そうです。



リンゴの木のオーナーだより

オーナー制を始めてから4年目。34組の方が登録、40本の木のオーナーになられています。正直なところ、こんなにオーナーの方が増えるとは当初思っていなかったので1軒の農家では足りなくなり、今回よりもう2軒の農家にもお願いしました。またビオトープにとっても、遠くのオーナーの方の宿泊を総てお受けすることもままならなくなり、結果ご迷惑をお掛けしています。そこで提案なのですが、花摘みと摘果の作業は、できれば摘果にいらして頂くことをお勧めします。花が咲き終わってから3週間くらい余裕がありますし、少し実が膨らんできた方が作業もしやすいと思います。また花摘みですと、まだ受粉しないうちに摘んでしまい、実がつかないことも起こります。何分私たちもまだまだ勉強不足ですが、皆様の方でもいろいろ勉強なさって下さればこんな嬉しいことはありません。去年より今年、今年より来年のように、より良いリンゴを目指してみませんか。

ご希望の方には作業の講習会のご案内を差し上げることも考えています。一本のリンゴの木が、農業をより身近に考えるきっかけになってくれれば幸いです。毎年開催の「りんごもぎ取り祭り」や「オーナー制」で小川村・成就のリンゴがとても美味しいと全国的に認められつつあります。リンゴの産地でもある飯山市の人が「みずみずしくて、歯触りが良くて最高だよ」と美味しそうに丸かじりしていました。

パソコン導入(ホームページ開設)

2000年3月、ビオトープにも遂に待望の(?)パソコンがやってきました。ホームページを開設するのが目的だったのですが、いつまでたっても「とりあえず…」トイウお粗末なもので、間に合わせでひんしゅくをかけていました。2月中にやっとなんとしたものが完成する予定です。何を隠そう、友人に作成してもらっています。情けなか……。どうぞいつまでもお気軽にお立ち寄りくださいませ。あっ、失礼、もう覗いていただいていたくださいね。実は私のパソコン使用はまだメールだけ。でもベンさんはメールは勿論、地図なんかもつくったりして大分使いこなしています。

●編集後記

ビオトープ通信は今まで知り合いの方々に500通ぐらい郵便で発送していました。このたびホームページにも載せることになり嬉しいやら、怖いやら、複雑な気持ちです。でもまっ、今まで通り肩を張らずに私なりに続けていこうと思っています。宜しくお願いします。ご意見ご感想もお寄せください。(真里子)